

● 学級全体への指導援助

非社会的行動をもつ子供の多くは、自分から孤立しているか集団に受け入れられていないことが多く、一般的に緊張して自由伸び伸びと学校生活を過ごすてはない。その子供を受容できる学級集団を育てることが必要である。

基本的対応	具 体 的 対 応	対 応 例
<p>(1) 本人を自由に伸び伸びと行動できるようにさせる</p>	<p>① 思いやりの気持ちを育てる。 ア 教師自身が思いやりの気持ちをもって接する。 イ 思いやりの大切さを気づかせる。 ウ 思いやりを体験させる。 エ 子供の思いやりの行動を認める。</p>	<p>○ 「かぜをひいてつらかったでしょう」「それでは、痛かったね」等の相手をいたわったり、思いやったり、痛みを分かるような言葉を常日ごろかける。 ○ 思いやりがあったために幸せになったことを、テレビ、ラジオ、新聞などの中から選び、話題にし話す。 ○ 思いやりの行動をテーマにしたロール・プレイングをする。 ○ 思いやりを示した子供に対して「○○をしたことは、○○さんはきっとうれしいと思っているよ」「いいことをしたね」などと認める。</p>
	<p>② 本人自身の気持ちなどを集団に理解させる。 ア 本人の言動を肯定的に伝える。 イ 本人の心情を理解させる。</p>	<p>○ 「ささっても遊ばないし一緒にしないんだ」と言う子供に対して、「多分、○○さんは、迷惑をかけないようにと思って独りであるんだね」と受け取って話をする。 ○ 話せない子供…「話そうと思っているのに、今は話せないだよ」チックの子供…「自分でやろうとしてやってるんじゃないから、気にしてるのかも知れないよ」 不登校の子供…「来たいと思っているのに何かがあって来られないんだね」などと気持ちをくんで話す。</p>
	<p>③ 意図的・計画的に集団への参加を図る。 ア 席順やグループ編成などを配慮する。 イ 本人の特性を生かし、学級のみんなにも認めさせる。 ウ 本人を受け入れそうな集団に誘い入れ、遊びなどの活動に加える。</p>	<p>○ 友人関係のつながり（ソシオメトリック・テストの活用など）を調べ本人が話しやすい人、受け入れやすい人、本人に話しかけやすい人と一緒にグループを作ったり席順を決めたりする。また、本人にかかわる子供を補助できる子供までも配慮して決める。 ○ 本人ができる、やりやすい、好きな役割をさせる。 ○ みんなの前で「ありがとう」「助かったよ」「よくできたね」などとさりげなく言う。 ○ この子供だけでなく他の子供にも同時に言う。 ○ 先生自身がグループに入るときに、「おもしろいから」と言ったり、また、先生と遊びながら、「ほら、ほら、来てみな」「ほら、やってみよう」「一緒に遊ぼう」などと声をかけたり、手を引いたりしてさりげなく誘う。 ○ 先生自身がグループに入っているときは、本人を受け入れそうなグループの子供に誘わせたりする。 ○ 遊びながらも常に、本人に気を配りながら、「よくできた」「おもしろかったね」「たいしたもんだよ」などと声をかける。 ○ 他の子供にも同じ言葉かけをする。</p>
<p>(2) 学級全体の間関係作りをする</p>	<p>① お互いが、理解し合い、受け入れ合うようにさせる。</p>	<p>○ 1対1の関係で話し合わせる。次から次へ変えて話し合わせる。1対1のペアを2ペア組んだり、グループを増やしたりし、話しやすい、自己紹介や、好きな食べ物、色などを話題にしお互い同士を十分に知り合うような機会を持つ。</p>
	<p>② 親ぶくを深める機会を作る。</p>	<p>○ 簡単にできるゲーム・歌などのレクリエーションや誕生会、スポーツ大会などを先生も一緒に行い楽しむ。</p>
	<p>③ 仲間意識をもつようにさせる。</p>	<p>○ 学校行事（学習発表会、文化祭、スポーツ大会、音楽会等）に教師も一員となって率先して参加するが、計画や活動の主体は子供におく。 ○ 学級独自の企画で集会活動や行事などを実施させ、学級がまとまるように補助する。</p>
	<p>④ 教育活動において、教育相談的手法を生かす。 ア 教育相談的な授業を展開する。 イ 教育相談をする。</p>	<p>○ 子供の発言に対して、考え方、意見をまず、「なるほど」「うん、うん。」とうなずいて聴き、さらに、「○○とやりたいんだね」「○○のような考えなんだね」「○○と言うことかな」と言う言葉を使って受け止める。 ○ 初めから、「よく聞いてないから」「やっぱりできない」などとは言わないで子供の発言を大事にする。 ○ 機会をとらえて1分間、3分間などの面接を多くし教師と子供の関係をつくる。絶対にしつたりしない。</p>